

大阪大学出版会

2021 年度日本史研究会総会・大会

会員様 オンライン特別割引のご案内

全品 20%OFF

開催期間：2021 年 10 月 1 日～2021 年 11 月 1 日

ご注文方法①

当会ホームページより、ご注文を承ります。

<http://www.osaka-up.or.jp/>

ご希望書籍を「ショッピングカート」に入れて、購入画面へお進みください。
ご注文者情報の「備考欄」に、「2021 年度日本史研究会総会・大会特別割引」と記載の上、お申し込みください。

ご注文方法②

Eメールにて、ご注文を承ります。

info@osaka-up.or.jp

件名を「2021 年度日本史研究会総会・大会特別割引」として、「お名前」「ご住所」「お電話番号」「ご注文内容」をご記入うえお申し込みください。

【特別割引について】

上記の方法にて当会への直接ご注文の場合のみ、特別価格 [定価の 2 割引] を適用させていただきます。
当会刊行書籍全点（当パンフレットに掲載されていない書籍も含む）が対象となります。

【送料について】

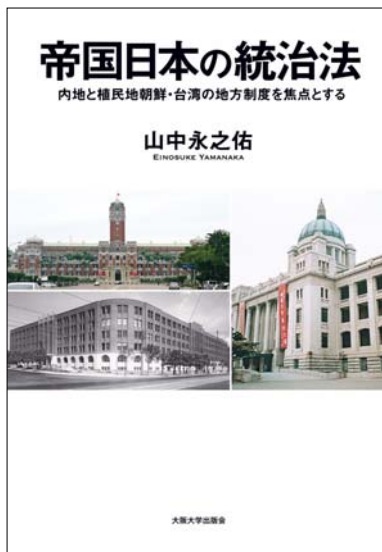
合計金額 5,000 円以上のご注文の場合は国内送料無料で承ります。

【お支払方法について】

ご注文書籍とともに郵便振替用紙を同封いたしますので、こちらをご利用ください。
公費のご購入の場合は、請求書類等のご指定などもあわせてご連絡をお願い申し上げます。

大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-7 大阪大学ウエストフロント
TEL (営業) 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617
e-mail info@osaka-up.or.jp URL <http://www.osaka-up.or.jp/>



帝国日本の統治法

内地と植民地朝鮮・台湾の地方制度を焦点とする

山中永之佑 著

A5判 990ページ 上製 定価15000円+税 ISBN978-4-87259-676-2 C3032

従来日本近代法制史の研究は内地を中心に行われた。

しかし、帝国日本の支配をトータルにとらえるためには、植民地朝鮮、台湾についてもその法制度を研究することが不可欠である。

近年、日本及び両国で公表されてきた研究も含め、市町村に当たる小さな単位に至るまで、その地方制度がどのようになっていたか、そして実際にはその制度の下でどのように人々が行動したかを資料に基づいて新たに解明し、侵略の歴史的事実を明らかにすることが本書の目的である。



海を渡った人形使節

国際人形交流から見た近代史

ベレジコワ・タチアナ (Berezikova Tatiana) 著

四六判 328ページ 上製 定価4100円+税 ISBN978-4-87259-735-6 C3021

本書は、近代日本における国際人形交流の歴史を明らかにするものである。明治時代以降の日本における人形をめぐる思想の変化を分析することで、人形がどのように新しい文化的役割を担っていったかを示した。また、人形をめぐる国際関係の展開を丁寧に追い、現在まで全く注目されてこなかった少年赤十字の国際人形交流への貢献、国際人形交流の前例となった、「フランス流の玩具外交」の事例等のヨーロッパ諸国の間の人形贈呈の歴史とのつながりについても考察する。近代において人形は国際関係を改善する存在として期待され、大きな力を持っていたものとして認識されていたことを示唆した。



阪大リーブル76

アーカイブズとアーキビスト

大阪大学アーカイブズ 編

四六判 234ページ 並製 定価1900円+税 ISBN978-4-87259-644-1 C1300

一般、学生向けにまとめられた、初めてのアーカイブズ学の入門書。公文書を管理する機関「アーカイブズ」と、その公文書を管理する専門職員「アーキビスト」の成り立ちや仕事、取り組むべき課題について学べる。公文書とは、どこでどのように選ばれて残され、公開されているのか。

アーカイブズは「良くも悪くも国を映し出す鏡」でありながら、米国で有名な公文書館に比して、日本では自国のアーカイブズに対してきわめて関心が薄い。こうした背景や、法、歴史、地方自治体だけでなく、教育委員会、企業のアーカイブズの事例も示し、重要性和課題の根底にある問題も伝える。デジタル時代のアーキビストの業務についても収録。



グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育

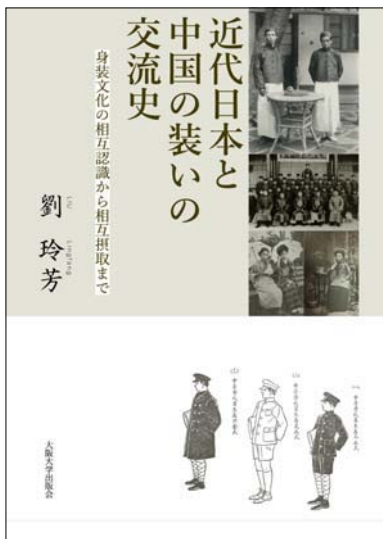
日本史と世界史のあいだで

秋田茂、桃木至朗 編著

四六判 358ページ 並製 定価2300円+税 ISBN978-4-87259-640-3 C1320

世界史と日本史を統合した思考力重視の高校歴史系必修科目「歴史総合」の新設を受けて、大学でも教養課程レベルの歴史教育改革の必要性が高まっている。本書は大阪大学で試行されてきた授業をもとに、既成の区分を超えた新しい歴史学方法論を提示しグローバルヒストリーと大学歴史教育をつなぐ、新たな教科書である。

- (1) 広範な地域をカバーし、欧米中心史観を相対化できる
 - (2) 古代から現代までを通時的にカバーし、前近代(古代から近世)を含む
 - (3) 高校教員との緊密な協力により高大連携を意識した内容であることを強みとする。
- 『歴史学のフロンティア』『グローバルヒストリーと帝国』『グローバルヒストリーと戦争』に続く意欲作。



近代日本と中国の装いの交流史

身装文化の相互認識から相互摂取まで

劉 玲芳

A5判 340ページ上製 定価5400円+税 ISBN978-4-87259-702-8 C3039

近代の日中において相手国の身装を着用する動機の違い、効果、影響の差異とは何だったのか。1900-1920年代の日中の交流のなか、それぞれの文化に驚き、差別を生みながらも身装文化は双方で取り入れられていった。日本人も中国人も同じように、洋服がアジア人である自分たちには合わない服だと認識し、自国の伝統の服装も否定し、中国では日本の服装への、日本では中国の服装への憧憬が生まれていった。本書では「近代化＝西洋化」に拘泥するあまり見えにくくなっていった両国の交流、これまで曖昧だった学生装、日本の学生服、中山装について、歴史と実態も明らかにし、東アジア交流史の研究分野に新たな一視座を与えるものである。



懐徳堂儒学の研究

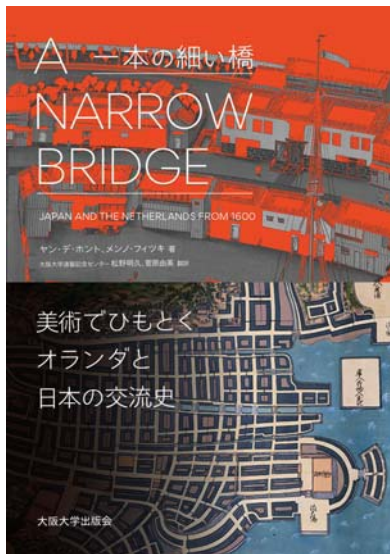
藤居岳人

A5判 386ページ 上製 定価6100円+税 ISBN978-4-87259-711-0 C3021

社会全体に対する責任感をもって政治実践に資するための学問として——幕末日本を動かした変革の裏にある、懐徳堂儒学の進展と儒者の存在とは。

江戸時代中期の大阪に開学した漢学塾懐徳堂。その最盛期の中心人物であった中井竹山・履軒兄弟が展開した懐徳堂儒学の軌跡から、朱子学とのつながり、懐徳堂儒学の思想的意義を明らかにする。儒学を実学に昇華させた懐徳堂儒学は、幕末に向かう日本近世思想史上にどのような深まりをもたらし、幕府や西国諸藩への実学の波及にどのような役割を果たしたのか。膨大な懐徳堂蔵書から紐解き、懐徳堂を改めて思想的に位置づける。

好評既刊書のご案内



A Narrow Bridge (一本の細い橋)

美術でひもとくオランダと日本の交流史

ヤン・デ・ホント (Jan de Hond) , メンノ・フィツキ (Menno Fitski) 著
松野明久, 菅原由美 翻訳

B5変判 256ページ 並製 定価6000円+税 ISBN978-4-87259-701-1 C0020

本書は、アムステルダム国立美術館とオランダの出版社Vantiltの共同出版物『A Narrow Bridge: Japan and the Netherlands from 1600』の翻訳書で、同美術館及び他機関所蔵の美術工芸品等を美しい写真で見せながら、4世紀にわたる日蘭関係史の大きな流れを解説するものである。

収載された国家間の関係を物語る豪華な献上品や貴重な歴史資料、および同美術館所属の日本文化研究者とオランダ史研究者の合作によるテキストは、それらの品々が伝える意味を解きほぐし、それぞれの時代に生きた人びとを生き生きと描き出しており、類書にない特徴となっている。



緒方洪庵の薬箱研究

マテリアルサイエンスで見る東西融合医療

高橋 京子

B5判 300ページ 上製 定価25000円+税 ISBN978-4-87259-700-4 C3047

幕末を代表する蘭方医、緒方洪庵の薬箱には当時の医療を知る多くの物品とともに正体不明の薬剤も収納されていた。蘭学等、洋学の受容から生み出された高水準の医療知識・技術が具現化されている薬箱の全容を初めてカラーで公開し、薬箱構成実体物の検証、収納物の特性解析と製剤技術の解明等について検討し、古文化財の分類、調査、分析、保存の具体的方法論を、「医療文化財」という新規の分類で明確にし提案するものである。



近現代東アジアの地域秩序と日本

瀧口 剛 編著

A5判 432ページ 上製 定価6000円+税 ISBN978-4-87259-699-1 C3020

グローバル化が進む現代において、経済や人的交流の面で相互依存が深まる一方で、安全保障・経済問題や価値観をめぐる対立は激しさを増している。本書は日米中の政治史を専門とする研究者が、20世紀の東アジアにおいて、各国の動向が交錯しつつ形成されてきたアジア秩序構想の歴史的生成およびその諸相を論じる。政治経済・軍事安全保障・価値観が複合的に作用する現代の問題にいかに対峙すべきか、歴史的見地から検討する。

20世紀東アジアの諸相

複雑に絡み合う外交、
国際協調の終焉、たび重なる戦争、安全保障・経済問題や価値観の対立—
日米中の研究者が、緊張と対立が増す現代の問題にいかに対峙すべきか、
歴史的見地から描き出す。